

「和歌山市地域子育て支援拠点事業運営業務」事業計画書④

【子育て親子の交流の場の提供と交流の促進（通年）】について

拠点を訪れる親子が居心地よく過ごせる空間になるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・親子同士の交流が促進されるための工夫

なかなか母親の輪に入れられない方の傍につき、まずは職員との会話を弾ませてから他の参加者の輪の中へ入れるように導くようにしています。

保護者が交流しやすい遊びを特に選んで取り入れるようにしています。

・未就園児を連れた保護者が居心地よく過ごせるような空間作り

拠点施設として一軒家を借りています。

畳の部屋やフローリングの部屋で活動するため、家庭的な空間で活動できるようにしています。

畳の床に直に座って活動できることは、子どもにとっても安心できる空間となっています。

子どもさんの年齢や保護者の雰囲気や、親子間の関わりに気を配り対応しています。

・交流の場に来た子供が楽しく過ごせる空間作り

安心・安全に活動できる遊具や玩具を何種類も準備し、子どもが自由に選択して遊べるように配慮しています。

異年齢児で参加される場合があるので、低年齢の子どもさんが危なくないように柔軟な空間づくりを行います。

【子育て等に関する相談、援助の実施（通年）】について

子育てだけに限らず様々な悩みを抱える保護者に対して誠意ある対応ができるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・安心して相談できるような環境づくり

保護者が個別に相談を望んでいるのか、それとも参加者の輪の中でいろいろな方からの意見を求めるのかを、職員があらかじめ確認し判断するようにしています。

に深刻な相談の場合は、さつきこども園の職員室内に相談スペースを用意していますので、プライバシーに配慮しながら相談できるような対策をとっています。

日頃から保護者とコミュニケーションをとり、気軽に声をかけてもらえる雰囲気作りをしています。

・相談対応時の心構えや相談を受けるための姿勢

相談を望む保護者の様子を見て、深刻な相談だと予想される場合は落ち着いた表情や姿勢で対応し、他の参加者の意見を聞きたいような相談の場合は、多人数での活動中に相談しやすいような言葉掛けを行い、相談しやすい環境を設定するように心掛けています。

・必要とされる援助等に円滑に結びつけるための体制整備

さつきこども園の業務のなかで、普段から和歌山市保育こども園課、こども家庭センター、児童相談所と連携を取っていますので、参加者の中に虐待等の問題があると分かった場合は、すぐに適切な機関に連絡を取る体制ができています。

【地域の子育て関連情報の収集・提供（通年）】について

保護者にとって有用な情報や保護者が求めている情報を、できる限り迅速かつスムーズに提供できるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・保護者のニーズ把握も含めた情報収集方法

日頃から、ニュースや新聞等で、保護者にとって有用であろうと考えられる情報を収集しています。

和歌山市や和歌山県から園児向け様々な情報が届きますので、その中から未就園児を持つ保護者に必要であろうと考えられる情報を収集しています。

積極的に参加者と会話する中で、今保護者に中で話題になっている情報や、求められている情報を聞き出すようにしています。

・保護者のニーズ・利便性に添った情報提供方法

情報は文書にして拠点施設に掲示したり、プリントを作成し配布しています。

また、過去の情報についてはファイルにまとめ、参加者に自由に見てもらえるようにしています。

参加者の輪の中で職員が情報を話すことで共有しています。

【子育て及び子育て支援に関する講習等の実施（月1回以上）】について

未就園児を連れて参加する講座としてふさわしく、かつ子育てのヒントになるような講座が実施できるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・参加のための工夫（内容、時間設定、参加方法等）

内容・・参加者が子育てに役立てられ、工夫でき楽しめるものにと心掛けています。

時間設定・・未就園児が対象ですので、参加してもらいやすい時間設定を心掛けています。

参加方法・・現在はコロナ禍からポストコロナへの移行期ですので、徐々に参加人数を増やし、多くの保護者に参加して頂けるようにしています。

・講座内容の設定に関する考え方

同じ講座でも、参加される子どもの年齢に合わせて講座内容を変えるなどの工夫をしています。

運営側から一方的に提供するばかりでなく、参加者の要望を聞き、参加者のニーズに合った講座や講座内容にしています。

特に参加者が不安に感じるような問題についてはスピード感を持って講座内容に取り入れるようにしています。（伝染病やコロナウイルス関連等）

【その他の子育て支援活動の実施】について

地域の実情、利用者のニーズ等に応じて、提案する拠点施設を生かした活動、拠点施設内にとどまらない近隣エリアにおける子育て支援活動等、どのような取組を行うのか記載してください。

・取組内容について

(例：●設置場所を生かした活動、●公民館、公園等に出向いた親子交流、●子育てサークルとの協働や連携、●高齢者、学生、地域団体との連携等)

●設置場所を生かした活動

・園庭開放

参加される子どもさんは、ほとんどが未就園児のため園庭開放を行う場合は安全対策が必要です。

そのためさつきこども園の園庭を使用するのですが、さつきこども園の運動場は遊ぶ子どもの年齢によって区域が分かれていて、低年齢の子どもが遊ぶエリアは全面にゴムチップがひかれていて、遊具の高さも低く抑えられているため安全に遊ぶことが出来ます。

●公民館、公園等に出向いた親子交流

赤ちゃんランド(中央コミュニティーセンター、鳴神文化会館)、青空広場(東公園、交通公園、四季の郷公園)、遠足(和歌山城公園、県立自然博物館)などを開催し、親子交流活動を行っています。

●子育てサークルとの協働や連携

さつきランドを利用されていた方がサークルを立ち上げる場合がありますので、各サークルが特色をもった活動ができるよう相談、サポートを行っています。

●高齢者、学生、地域団体との連携等

・東京医療保健大学と連携し、学生さんの学びの場として利用して頂いています。

・最近は、「孫守り」をする高齢者が増えています。

他県からの里帰り出産等で「孫守り」をするようになった祖父母の方や、日頃から「孫守り」をしている祖父母の方に利用して頂き、若い保護者の相手に子育て昔話などをして頂き、若い保護者の子育ての参考にしてもらっています。

・宮前保育所さんと連携して子育て支援活動を行っていますので、利用者の方にお互いの活動を紹介する等して、宮前地区全体で子育て支援活動を盛り上げています。

・取組を実施することによる効果等について

地域の施設に出向くことで、たまたまその場所に来られていた保護者の方たちに活動の紹介や配布物の提供、一緒に参加して頂くことで、様々な子育てに関する情報を知ってもらうことができます。

サークルを立ち上げ活動されている方は、さつきからの子育て情報を自身のサークル活動を通して伝えて頂くことができるので、より多くの方々に知ってもらうことができます。

保護者によっては、わざわざ拠点施設(さつきこども園)での活動に参加することが抵抗のある方がいらっしゃいますが、ご自分が住まわれている地域の方に来てくれるなら参加しようと考えられる方がおられます。

こちらから出ていくことで、そのような保護者と接する機会を持つことによって、次は拠点施設まで行こうかと考えるようになり、実際に拠点施設まで来て下さる方がいます。